

令和 8 年 9 月 7 日

職員の皆さんへ

前橋市長 小 川 晶

令和 9 年度予算編成方針

当初予算編成に向けて

今年度公表した中期財政収支見通しでは、急激な少子高齢化やそれに伴う社会保障関係経費の増加に加え、今後予定されている大型の投資的事業が数年の間に集中していることなどから、毎年度、大幅な収支不足が見込まれ、大変厳しいものとなっています。一方で、本市の今後の発展のためには、まちの魅力を高め、経済活動の活性化につながる、将来を見据えた取組も着実に進めていく必要があります。

こうした状況の下、持続可能な財政運営を行うためには、市民目線に立ち、市民との対話を丁寧に行いながら、今、最も必要とされている市民サービスは何かを考え、経常的な事業はもとより、計画に沿って進めてきた投資的事業であってもゼロベースで十分な検証をした上で、事業の優先順位を抜本的に見直していくことが必要です。

これらを踏まえ、多額の事業費が見込まれる「湯けむり国スポ・全スポぐんま」が開催される令和 11 年度を「節目の年度」と位置付け、今年度から「湯けむり国スポ・全スポぐんま」開催前年度の令和 10 年度までを「構造改革期間」とし、人口減少や社会経済情勢の変化を見据えながら、将来にわたって持続可能な財政運営と都市構造への転換を進めていくこととします。

また、「湯けむり国スポ・全スポぐんま」終了後の令和 12 年度以降を「構造改革から次の成長段階へ移行する期間」とし、改革の成果を着実に積み重ねながら、本市の未来を切り拓いていきたいと考えています。

従来 of 予算編成過程では、コストの削減に議論の時間が割かれてしまうため、本来の目的である「何のために」、「誰のために」実施する事業なのかという議論が十分に尽くされていないように感じています。そこで従来 of 過程を改め、予算編成前に政策レビューを実施し、主要事業の方向性を整理したところ です。

このたび令和9年度当初予算編成においては、政策レビューと連動した「一般財源枠配分方式」を導入することで、部局主体での事務事業の見直しと、限られた財源において重点的な予算配分を進めることとします。

予算要求にあたっては、各部局長のリーダーシップの下、それぞれの事業について、政策レビューの結果などを踏まえた見直しと改善の議論をしっかりと行うとともに、所属の枠にとらわれず、横の連携を意識しながら、より良い市民サービスの提供につながる工夫にも積極的に取り組んでください。

職員の皆さんは、市民一人ひとりの暮らしを支える存在であると同時に、これからの本市の姿を形づくる役割を担っています。その責任と誇りを持って、厳しい財政状況の中にあっても将来への希望が感じられる予算となるよう、全力で取り組んでいただくことを期待しています。

基本的な考え方

1 市民目線を第一に

全ての事業は、市民目線を第一に、「市民のためになるかどうか」を基準として、より効果的な事業となるよう見直します。

2 未来を見据えて

医療や介護、子育てなど、市民の日々の暮らしに直結する施策を着実に進めるとともに、農業や産業、まちづくり、教育などの分野をバランスよく展開することにより、これまでどおり市民の暮らしを支えながら、本市の将来の発展につながる予算を編成します。

3 持続可能な財政運営

令和9年度は第七次前橋市総合計画の最終年度になることから、当計画に掲げる「6つのまちづくりの柱（※）」に関連する事業を、目標の達成に向けて着実に進める一方で、予定している事業に取り組むためには、将来を見通した財政運営が求められるため、財政の健全性に十分留意します。

※「6つのまちづくりの柱」

- 1 人をはぐくむまちづくり（教育・人づくり）
- 2 希望をかなえるまちづくり（結婚・出産・子育て）
- 3 生涯活躍のまちづくり（健康・福祉）
- 4 活気あふれるまちづくり（産業振興）
- 5 魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）
- 6 持続可能なまちづくり（都市基盤）